

# 働く中で孤立してゆく人々のつながり

## なかまのつどいの人々

「障害のある人もない人も共に街で生きよう」と活動するわらじの会の会報「月刊わらじ」の中に、毎月「なかまのつどい」というページがある。「山崎君とかとう君とボーリングにいきました。」とか、「みねちゃんと一緒に越谷のヨーカドーに行きたいと思います。」とか、「会社の旅行で伊東に行ってきました。」などと書かれている。

この「なかまのつどい」のメンバーは、企業で働いている知的障害といわれる人々が多い。職場はみなけっこう重労働で、同世代の人たちが少ないところが多い。障害があるぶん、人より三十分、一時間早く出勤し、熱があっても休まない。明日に響かないよう、夜は早く寝る。会社が終わると寄り道せず、まっすぐ帰宅する。給料も浪費しないよう、親に貯金してもらっているという人が多い。だから会社が休みの日はすることがない。

それで、同じような境遇にある特殊学級の同級生同士でつるんで、スーパーのレコード店をのぞいて食堂に入って帰ってきたり、わらじの会の行事に参加したりしていた。そういう自然発生的なグループが核になり、もう少し輪を広げて七年前に発足したのが「なかまのつどい」だ。一ヶ月か二ヶ月に一度カラオケや花見などを企画し、毎月わらじの会会報に原稿を寄せている。

今回の「べんきょう会」では、この「なかまのつどい」メンバーのうちの何人かの職場と暮らしを紹介しながら、「就労支援」や「生活支援」といった言葉だけではくくりきれないものを考えてみたい。

共に働くまちを拓くべんきょう会 (第7回)

三月二十三日(木)午後六時半

越谷市中央市民会館五階



参加費・二百円 誰でも参加できます

# 第7回・共に働くまちを創るべんきょう会 「働く中で孤立する人々のつながり」

報告・小川信一さんほか (なかまのつどい)

共に生き・共に働く街を考えるおしゃべり会。どなたもどうぞお気楽に！

三月二十三日(木)

午後6時半～9時

越谷市中央市民会館5F

参加費 二〇〇円

(時間の許す方は、終了後食事しながらのおしゃべりも一緒に)  
主催・障害者の職場参加を考える会



連絡先・デイケア・パタパタ (一ノ瀬)  
048 (733) 2743

「このべんきょう会の目的である「共に働くまち」とは、ただ「障害のある人に職場を」ということではなく、障害のある人の生活・思いが障害のない人の生活・思いと出会い、お互いに考え合える環境を切り拓くことです。

今回の報告に向け、いまビデオ、写真を準備中です。申し込みでぜひお申し込みください。